

蹴球部



1989(平成元年)・11・11 慶明戦。試合終了寸前、明大ボールのスクラムからボールを奪い、球をつなぎ渡瀬からのボールをNO.8良塚が劇的逆転のトライ。8-7で勝利を納める。(朝日新聞写真提供)



1901(明治34年)・12 1899年塾にクラーク教授と田中銀之助氏によりラグビーが紹介され、横浜外人クラブと初試合を行った時の出場選手。中央左、クラーク教授、右が田中銀之助氏。日本ラグビー史上初試合の歴史的写真である。

1904(明治37年)・12・8 邦人チームがなかったため、年2回YCACと試合をしていた。横浜公園グラウンドで行われた試合は17-0で敗れた。両チームの集合写真として初めてのものの。



1922(大正11年)・1・7 第9回同志社大との定期戦11-0で本塾の勝ち。京都同大グラウンドに数千の大観衆が集まった様子は当時のラグビーに対する一般の興味のほどがうかがえる。



1922(大正11年)・11・23 第1回早慶定期戦が綱町グラウンドで行われ、14-0本塾の勝利。綱町剣・柔道場の屋根の上に観衆の多いこと。現在も早慶戦は11月23日と決まっている。





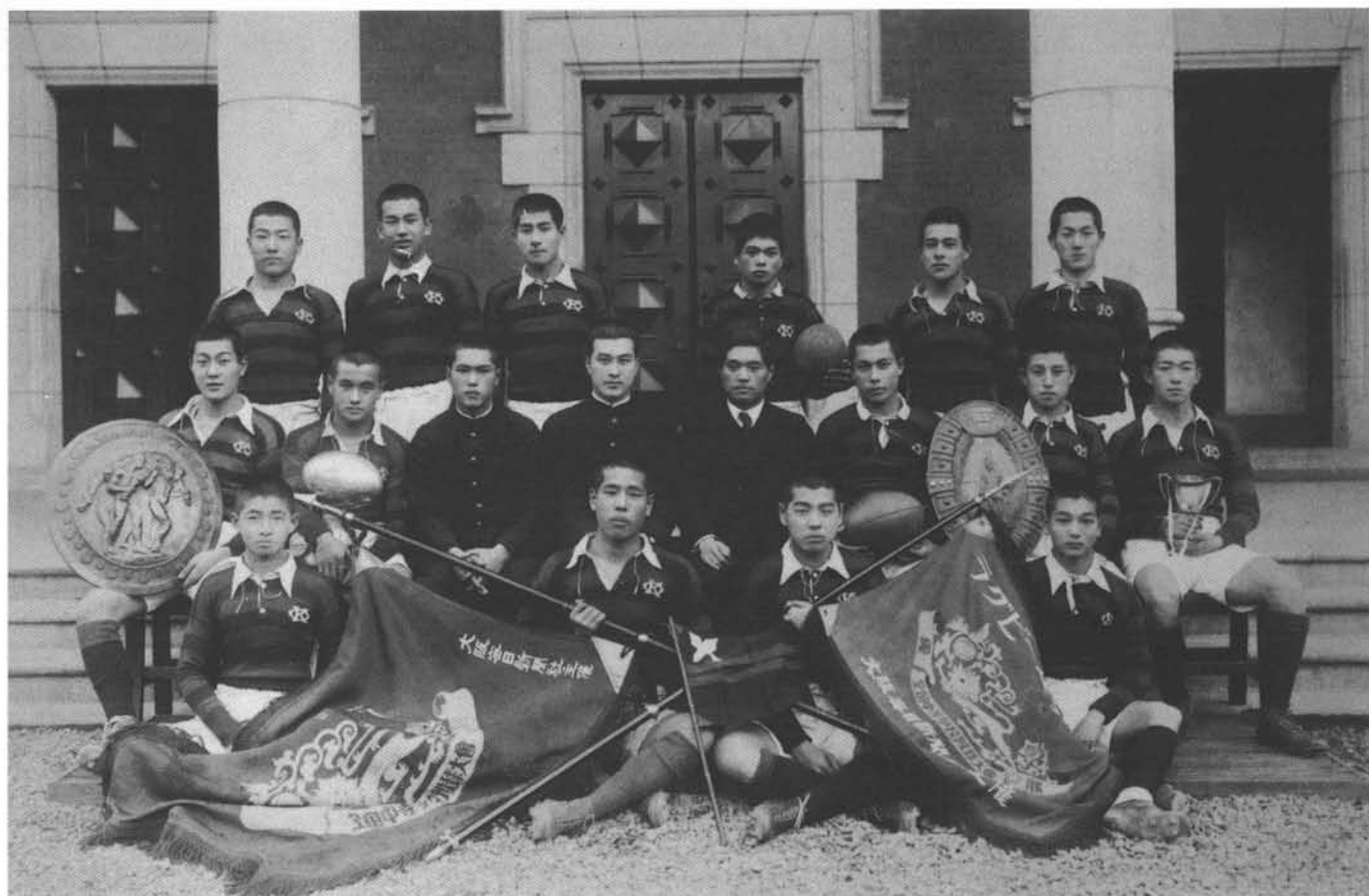
1924(大正13年)・2・3 第2回対東大定期戦が
綱町グラウンドで行われ引き分けに終わった。当日
秩父宮、質陽宮両殿下がご台臨観戦された。この
頃から秩父宮はラグビーに興味を持たれ、その名
を偲んで秩父宮ラグビー場と命名されている。



1928(昭和3年)・2・7 上海駐屯の英国マリントンチームが来日。全関東と対戦22-0で大
勝。当日ご観戦の秩父宮に当時ラグビー協会理事長、本塾OB田辺九万三氏がご説明。



1925(大正14年)・12 初の海外遠征として上海へ渡り、全上海に13-12で惜敗するも、
全香港には8-3で快勝した。上海クリケットグラウンドに於ける出場選手の集合写真。



1930(昭和5年)・1・7 普通部は第12回全国中等大会で初優勝。酒井部長を囲んで三田山上
大ホール前で記念写真。最前列右から2人目は後のデビスカップ選手となった山岸二郎氏。

1984(昭和59年)・11・23 早慶戦。CTB松永からフォローしてきたフランカー玉塚にボールが渡り突進。この試合12-11と接戦の末、勝ち、対抗戦全勝優勝。(今野完治氏提供)



1985(昭和60年)・3・6 創部85周年記念英国遠征において、ケンブリッジ大と対戦。英国代表2選手を含む強力メンバーを相手に48-8で敗れる。



1986(昭和61年)・1・15 日本選手権、対トヨタ自動車戦。きちんとバインドされたモールより、プロップ橋本、ハーフ生田にボールを供給。



1986(昭和61年)・1・15 日本選手権、対トヨタ自動車戦におけるラインアウト。主将中野、ボールをとる瞬間。





1989(平成元年)・11・12 慶明戦。明大の突進をタックルではばむ。18-17で追撃を振り切り勝つ。



1986(昭和61年)・1・15 社会人の覇者トヨタ自動車を18-13で降し、創部37年にして初の日本一の座につく。上田監督、中野主将以下、当日のメンバー。



1989(平成元年)・11・23 早慶戦。後半、出原(フランカー、主将代行)のトライ直前の突進。この試合、15-39の大差で敗れる。

1899 E・B・クラーク、田中銀之助により、慶應義塾に初めてラグビーが紹介された。

1901・12・7 蹴球部創立初の対外試合を横浜YCACと行い、35-5で敗れる。

1904 綱町グラウンドが完成。1・29 塾内大会開催。11・19 第2回塾内大会が行われ、幼年組が誕生。この年を普通部・高校の創立年とする。

1908・11・14 綱町グラウンドにて初めて横浜外人を12-0で破る。11・11 ラ式蹴球渡来10年記念“ラグビー式フットボール”蹴球部編を出版。

1911・4・8 邦人同志の初試合として三高と対戦39-0で勝つ。レフリー、ウィドー氏。

1912・1・8 初の関西遠征、同志社と初対戦24-3で勝つ。

1922・11・23 早大と第1回定期戦を綱町グラウンドで行い、14-0で勝つ。

1923・1・21 帝大と初試合8-0で勝つ。

12・18 明大と初試合60-0で勝つ。12・30 京大と初試合9-0で勝つ。

1924・2・3 綱町グラウンドで東大と対戦、引き分けに終わったが、この日秩父宮がご台臨観戦された。2・11 ラグビー渡来25年祭挙行。

1925・12・22 初の海外遠征、上海にて対全上海に12-13で敗れたが、対全香港に8-3で勝つ。

1926・11・23 初めて神宮競技場を使用し、第5回早慶定期戦が行われた。8-8の引き分け。12・2 日本ラグビー蹴球協会が設立され、理事長に塾OBの杉本貞一氏が就任。

1927・11・23 第6回早慶定期戦8-6で敗れ、創立28年以来、対邦人チームに初の黒星となった。

1930・1・7 第12回全国中等大会で普通部初の全国制覇。大学も早、明、帝を破り優勝。

1940・1・8 第15回全国高専大会で予科初

の全国制覇。

1941・1・8 第16回全国高専大会で予科は三重高農を破り2連覇。

1942・11・29 苦節11年、ついに早大を破り全勝優勝を達成。

1943・1・1 第25回全国中等大会に普通部9年ぶりに出場、惜しくも1回戦で敗退。

1944~1945 第2次世界大戦激化のため、ラグビーとしての活動は中断。

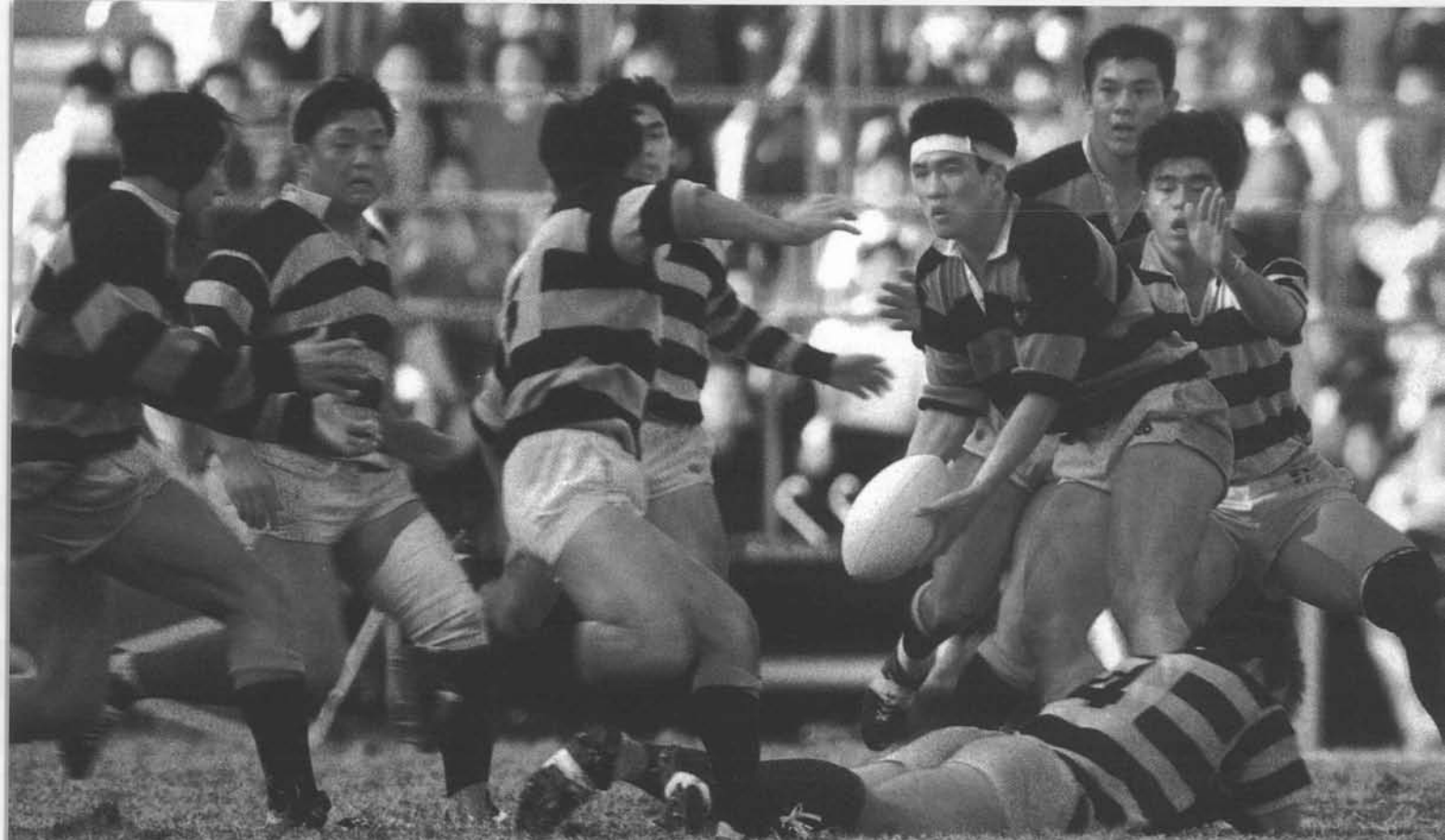
1946・1・1 戦後初の京大戦に勝つ。11・23 復活早慶戦にも9-8にて早大を破る。

1947・1・8 全国予科大会に予科優勝。

1949・1・4 明治44年より39年間続いた対三高戦26-11にて勝ち、最終戦を飾った。

1952・9・14 来日したオックスフォード大と全慶應が対戦、6-28で敗れる。

1953・1 高校全国大会(全国中等大会)に10年ぶりに出場。残念ながら2回戦で敗れる。9・13 全慶應、ケンブリッジ大と対戦、3-



1989(平成元年)・11・12 慶明戦。この試合追撃する明大を18-17で降し、2年連続で勝った。また、この勝利で交流試合の出場権を手にした。(今野完治氏提供)

1989(平成元年)・12・17 久々に交流試合に出場。昨年の王者大東大と対戦。好ゲームを展開するも、6-13で敗れる。モールよりハーフ奥田にボールが渡る瞬間。



1989(平成元年)・12・17 交流試合対大東大戦。大東大の強力No.8ラトゥに対する慶應のタックル。この日随所に慶應伝統の好タックルが見られた。



14で善戦したが敗れる。

1955・1・7 第34回全国高校大会にて高校は秋田工を6-5で破り、昭和5年以来2度目の優勝を遂げた。/11・23 早慶戦 11-5で早大を破り、9年ぶりの全勝優勝を遂げた。

1956・3・18 全慶應、豪州学生軍と対戦、38-14で敗れる。

1958・3・21 全慶應、オールブラックスと対戦、33-3ノートライで敗れる。/6・1 塾蹴球部創立60周年記念式典を日吉にて挙行。

1959・9・16 日英親善ラグビー第3戦、オックスフォード、ケンブリッジ大学連合軍と全慶應の対戦は、国立競技場初のナイターとして行われ、24-17で惜敗。/10・14 オックスフォード、ケンブリッジ大学連合軍と全日本の対戦には、本塾から山田、今村、青井、石井の4選手が出場。

1962・9・1 フランス学生選抜軍来日第1戦で本塾が対戦、19-13で善戦しく敗れる。

1970 対抗戦では早大に1敗したが大学選手権決勝で早大と同点、抽選勝で優勝。/1・15 社会人優勝のトヨタ自動車との日本選手権試合を行い、44-16で惜敗。近年に無い健闘を見せ、好成績を残す。

1974・1・4 大学選手権決勝戦にて早大に敗れるも準優勝となる。

1978・1・4 大学選手権決勝戦にて明大に惜敗、準優勝となる。

1979・3 創部80周年を記念して、全慶應でオーストラリア・ニュージーランドへ遠征、大学、クラブチームと対戦。6試合行い、4勝2敗の好成績を納めた。

1984・11・11 対明大戦に8-7で勝つ。/11・23 第61回早慶定期戦に12-11にも勝ち全勝優勝。

1985・1・6 大学選手権決勝で同志社に6-10で敗れ、準優勝となる。/3・3 創部85周年記念全慶應英国遠征が行われる。ロンド

ン大 23-19で勝つ。/3・13 オックスフォード大 29-10と勝ち、2勝3敗。留学中の浩宮現皇太子殿下もオ大戦を観戦された。

1986・1・4 大学選手権決勝で明大と12-12の引き分け両校優勝。/1・15 日本選手権でトヨタ自動車と対戦、18-13で優勝。初の日本一となる。

1989・3 創部90周年記念全慶應チームのニュージーランド遠征が行われ、オークランド大学をはじめ5戦、1勝2敗2引き分けの戦績。/11・26 塾高17年ぶりに神奈川代表として全国大会に出場、花園にて2回戦東海大一高に勝ち、3回戦天理高に惜敗。

1990・7・22 前年より準備を進め、着工した山中グランド芝生植生工事が完了。竣工式を実施。グランド芝生2面、グランド整備機材一式、格納倉一棟を黒黄会より本塾に贈呈。OBの熱意実る。